

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	870200862		
法人名	医療法人 祥人会		
事業所名	グループホームホーム ハーモニー		
所在地	日立市十王町伊師3458-1 (電話) 0294-39-3232		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年12月18日

【情報提供票より】(平成19年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤0人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	2,500~3,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	10名	男性	3名	女性	7名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	0	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	2		
年齢	平均 79.4歳	最低	72歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	十王ひがし野クリニック 鈴木歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは設置法人が運営している人工透析の専門クリニックを利用している方の要望に応じて開設しており、自宅での生活や通院に困難を極めていた利用者や家族にとって、安心して生活できる数少ないグループホームである。
職員は利用者の健康状態を把握し、対応方法を熟知するとともに、併設クリニックとの連携を充分に図りながら、利用者が安心して暮らせるよう、支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホームの運営理念は玄関の見やすい場所の掲示や介護計画の見直し、応急手当マニュアル・ヒヤリハット報告書の作成など、外部評価の課題を職員全員で話し合い、改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者及び管理者は、職員とともに外部評価の意義を十分理解し、職員全員で自己評価を行っている。 また、玄関に外部評価報告書を置き、誰もが閲覧できるようにするとともに、サービスの向上及び改善に活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、市の職員、元町内会の住人や元病院職員などを委員とする運営推進会議を開催している。 会議では、利用者の健康状態やサービスの提供状況を報告するとともに、出席者からの情報を参考にサービスの向上につなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等からの意見・苦情について、窓口や担当者を設置するとともに、重要事項説明書等に明示している。 また、意見等について管理者が直接聞いているが、意見箱等の設置やホーム以外の外部機関を周知するまでには至っていないので、家族等が自由に意見等を書けるよう、意見・苦情箱を設置するとともに、市の介護保険担当課や国民健康保険連合会などの外部機関にも相談できるよう、連絡先を明示することが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム前にある保育園との交流はしているが、自治会への加入など、積極的に地域と交流するまでには至っていないので、ボランティアの受け入れを始め、ホームの催しなどを企画し、地域の方々を招待するなど、交流する機会を設けることが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の安心と尊厳を守る」の理念を掲げるとともに、地域密着型サービスの意義を全職員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングやケアカンファレンスなど、折に触れ理念の意義を確認するとともに、利用者のケアを第一に考えてサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム前にある保育園との交流はしているが、自治会への加入など、積極的に地域と交流するまでには至っていない。	○	ボランティアの受け入れを始め、ホームの催しなどを企画し、地域の方々を招待するなど、交流する機会を設けることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者は、職員とともに外部評価の意義を十分理解し、職員全員で自己評価を行っている。 運営理念の掲示や介護計画の見直し、応急手当マニュアル・ヒヤリハット報告書の作成など、職員全員で話し合いを行い、改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の職員、元町内会の住人や元病院職員などを委員とする運営推進会議を開催している。 会議では、利用者の健康状態やサービスの提供状況を報告するとともに、出席者からの情報を参考にサービスの向上につなげている。	○	運営推進会議の構成委員に、地区の民生員や病院の院長などの参加を求めることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員が月に1度訪問している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に利用者の様子を電話で連絡している。 金銭管理は一人のみが自己管理を行っており、他の入居者の金銭は預かっていない。	○	家族等への報告は、電話で連絡するばかりではなく、ホーム便りを発行し、利用者全体の暮らしぶり等について伝える事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見・苦情について、窓口や担当者を設置するとともに、重要事項説明書等に明示している。 また、意見等について管理者が直接聞いているが、意見箱等の設置やホーム以外の外部機関を周知するまでには至っていない。	○	家族等が自由に意見等を書けるよう、意見・苦情箱を設置するとともに、市の介護保険担当課や国民健康保険連合会などの外部機関にも相談できるよう、連絡先を明示することが望まれる。 また、ホームの利用等に関する無記名式のアンケートを実施することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、退職する1ヶ月上前より、後任の職員が退職予定の職員と協働してケアにあたるなど、職員の離職により利用者が混乱しないよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を各研修会に参加させ、研修報告書を作成しているが、職員の育成計画や職員の段階に応じた研修を受講できる体制には、至っていない。	○	職員の育成ばかりでなく、職員が自信と意欲を持って仕事に取り組めるよう、職員の経験や段階に応じた内外の研修を受講できる、体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者懇談会等を通じて、事業者との交流は行っているが、ネットワークづくりや相互交流するまでには、至っていない。	○	事業者懇談会やグループホーム協会などの研修会等に積極的に参加し、市内や同業者と交流するなど、ネットワークづくりや相互訪問を行なうなど、関係づくりに取り組む事を期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は設置法人が運営する、クリニックに通院していた透析患者であるため、以前からホームを見学に来ており、職員や利用者と同様なじみとなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者及び職員は利用者の生活歴を把握するとともに、利用者の得意なことが発揮できるよう、場面づくりに取り組んでいる。 また、利用者の尊厳を守るとともに、病気を考慮し、辛い透析の治療を乗り越えられるよう、しっかりと支えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が家庭と同じ環境で生活できるよう、家族等に思いや生活の状況を聞くなど、利用者一人ひとりの希望や意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	併設するクリニックの看護職員や介護職員との話し合い、申し送りノート・日々の記録などから必要に応じてカンファレンスを開き、介護計画を作成している。 介護計画は家族に説明しており、了解を得た介護計画書は押印している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月の期間を設け、期間満了時に見直すとともに、利用者の状態に変化があったときは、随時見直ししている。 職員は利用者に変化があった時は、家族や本人の意見を取り入れ、また、介護記録を参考に、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取得し、設置法人のクリニックで、利用者が適切な医療を受けられるよう、連携している。 利用の希望があれば、要支援2でも受入れるなど、利用者の希望や要望に応じた柔軟な支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は併設のクリニックで透析を受けており、状態に応じた適切な受診ができるよう、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算を取得し、ホームとしての重度化した場合の指針を作成するとともに、重要事項説明書に明示し、家族に送付している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のケアの姿勢は丁寧でさりげなく、利用者一人ひとりを尊重し、適切な言葉かけをしている。 また、個人の記録などの取り扱いは、漏洩のないよう、十分に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望を取り入れ、利用者本位のペースで暮らせるよう、支援している。 また、利用者が家族と電話で話をする場合には、事務所の電話を使用している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員が塩分の取得制限があるため、クリニックより、カロリーと塩分等に配慮した食事が届けられている。 食事の配膳や後片付けを利用者が手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3日、午前10時から夕方までと決まっているが、利用者の希望により、夜間も支援している。 入浴を拒否する利用者には、清拭や足浴・陰部洗浄を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は編み物や習字、配膳や後片付けなど、得意なことや好きなことに取り組めるよう、支援している。 習字の得意な利用者の書を食堂に掲示している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に注意しながら、ホーム敷地内の散歩や敷地内の保育園に出かけ、園児たちの太鼓の演奏を聴いている。 また、利用者の希望を聞いて、桜の季節には花見に出かけるなど希望に応じた外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の行動などに目配りしており、玄関の鍵は夜間以外、かけていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回、地震訓練は年1回行うなど災害対策への避難訓練を実施している。また、緊急時に備えて緊急連絡網を作成している。	○	火災訓練時に利用者にも消火器の操作などを体験してもらうことを提案する。また、災害時のライフライン復旧期間を想定し、水やレトルト食品等を備蓄することを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者それぞれの栄養バランスや水分摂取量の制限値などについて、管理栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の玄関、居間、食堂、廊下は明るく清潔に保たれている。 食事時のBGMは耳障りな音量ではなく、利用者の好みの曲を選んで、流している。 利用者の手づくりの作品を、季節ごとに廊下や居間に飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は思い出の写真やダンス、テレビ等を持ち込むなど、居心地よく過ごせるよう、配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。